

# あゝ道の記

## ーアキチノミチー

舞台は山口県下関。本州最西端に位置し、自然に恵まれた歴史深いまちである。幾度も戦の舞台となり、港町として栄えてきた。その中でも中心市街地における斜面住宅地域は元来海岸であり昭和戦後の人口急増期の受け皿となった。しかし令和4年現在、人口減少が著しく、まちには高齢者とともに空き家や空き地が急増。さらには斜面に位置することから住居の修繕・解体も困難なエリアとなっている。

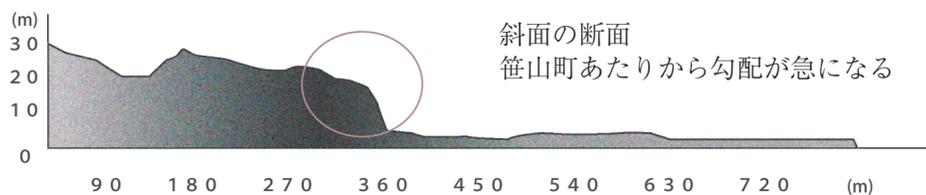
そこで私はこの傾斜住宅地域における空き地から、農にまつわる空間を造り、地域の人とともにまちを畳んでいく。

そして本来の山の姿に戻す。その時何が残るのだろうか。



## 01 敷地 下関の斜面住宅地域

JR下関駅から徒歩10分、ショッピングセンターや宿泊施設・観光地からも比較的近く生活に便利な立地となっている。埋立地ができるまでは海岸通りとして栄えており飲食店が立ち並び賑わいを見せた。しかし傾斜住宅地域に残されたのは高齢者と多くの空き家・空き地である。道幅が狭く自動車が入れないことから家屋の取り壊し・修繕も困難となっている。また斜面地域の道の多くは勾配が急な坂や階段となっており高齢者の生活に不便を招いている。家屋自体も6・70年前ごろに建てられ老朽化、更には土砂災害の可能性も考えられている。問題が多く見受けられるエリアとなっている。



360度纏う坂と階段

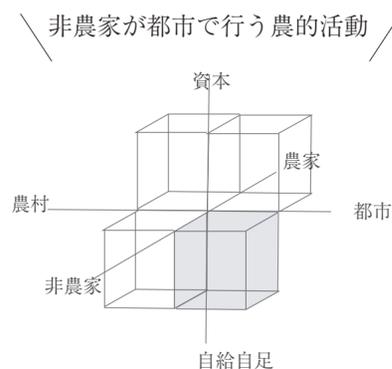
石積み壁・擁壁

木造住宅取り壊しによってできた空き地

## 02 コミュニティガーデンを用いた提案

### コミュニティガーデンの特徴

- ・共同耕作により交流やコミュニティ形成を促進
- ・原則農地を使わず、低未利用地を利活用することで緑地化していく可能性。



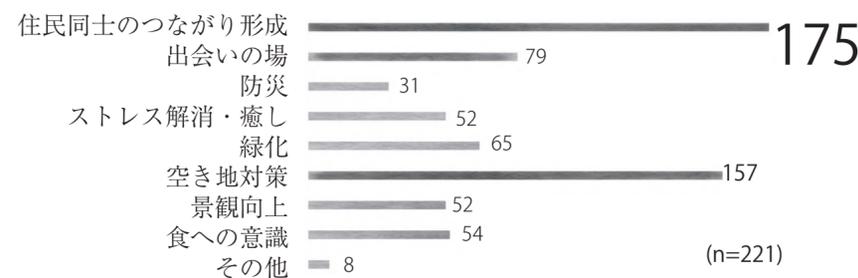
### コミュニティガーデン開設までの経緯

- ①空き家と雑草の繁茂
- ②空き家の解体
- ③更地化 宅地として売却
- ④人の手で畑や境界の整備
- ⑤農園として利用
- ⑤イベント時の利用



農的活動者・周辺住民の双方に良い点があり相互に利点を感じることが持続可能な活動につながる

### ・氷川台農園が解決する課題項目（複数回答可）（周辺住民へのアンケート調査）



### ・コミュニティガーデンに対する考え（活動者へのヒアリング調査）

良い点	
・仲間の健康確認ができる点	・体験する子供たちに喜んでもらえる点
・農作業がいい運動になる点	・栽培した野菜をイベント時に使用できる点
・採りたて野菜が手に入る点	・周辺の住民が気軽に農園のお世話が出来る点
・様々な取り組みができ楽しい点	・屋外の活動によりコロナに関係なく活動が行える点

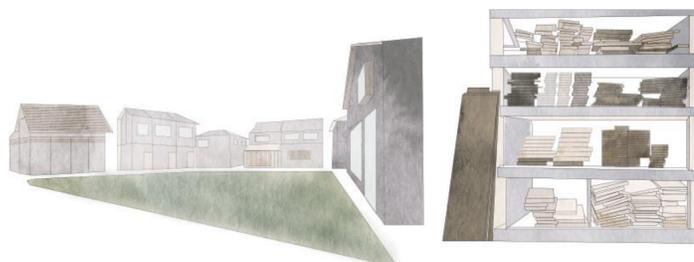
事例：東京都東久留米市「氷川台農園」  
協力：氷川台自治会

## 03 設計コンセプト

### 1 空き家の発生



### 2 解体による空き地と廃材の出現



### 3 地域人口の参入



### 4 空き地の整地、コミュニティガーデンの活用、農的空間の建築

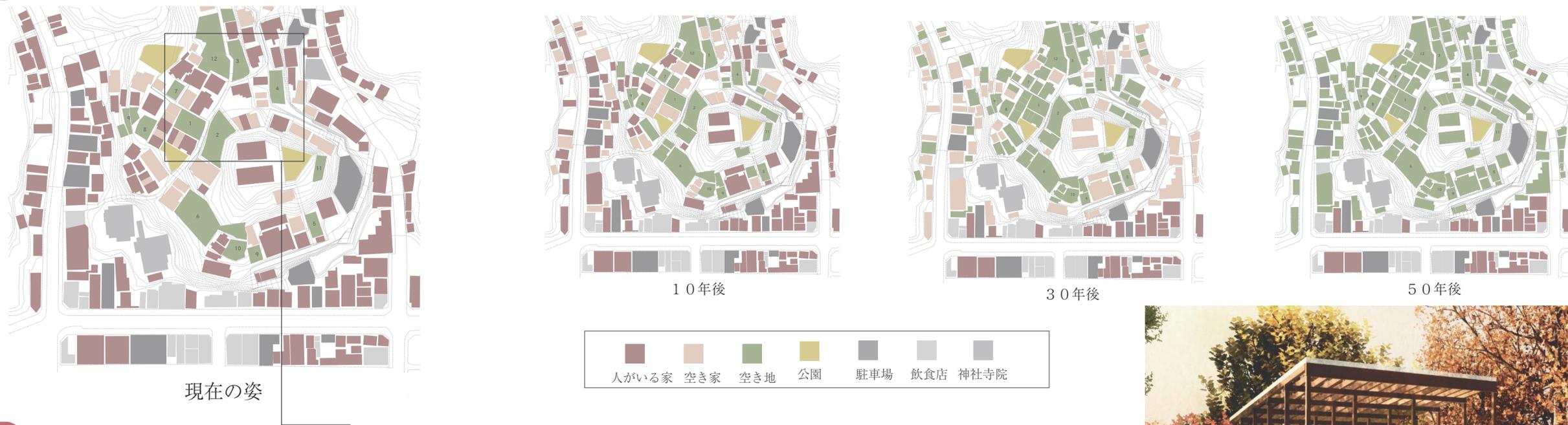


1. 2. 空き家を解体することで空き地だけが残る雑草などにより景観が悪化。しかしこれを地域の資源と捉える。また解体とともに廃材が出現する。廃材は他の空き家を活用した木材ストック場に一時的に保管しておく。

3. 地域の高齢者、子供、親子、学生、社会人がレジャー・農的体験として参入。  
4. 空き地を整地しコミュニティガーデンに活用する。そして農的活動と交流の場へと変身する。また廃材の活用により農を気軽に楽しめる空間を建築する。施設の利用者はDIYや調理する際の薪として少しずつ廃材を利用し帰る際に町から外へ持ち出していく。つまり民間で自分たちでできるエネルギーの再生ではないだろうか。

04 将来のビジョン

コンセプトをもとに将来の姿を描く。現在空き家・空き地・人が居る家が混在している。そこで空き家解体とともに空き地を農的活動の場やレジャー・交流の場へと活用する。そして10、20、50…年後と緑があふれる空き地として変化していく。



05 配置図

現在空き地となっている部分に農的空間と施設を建築する。スロープや屋根を作ることで勾配が急な斜面を繋いでいく。

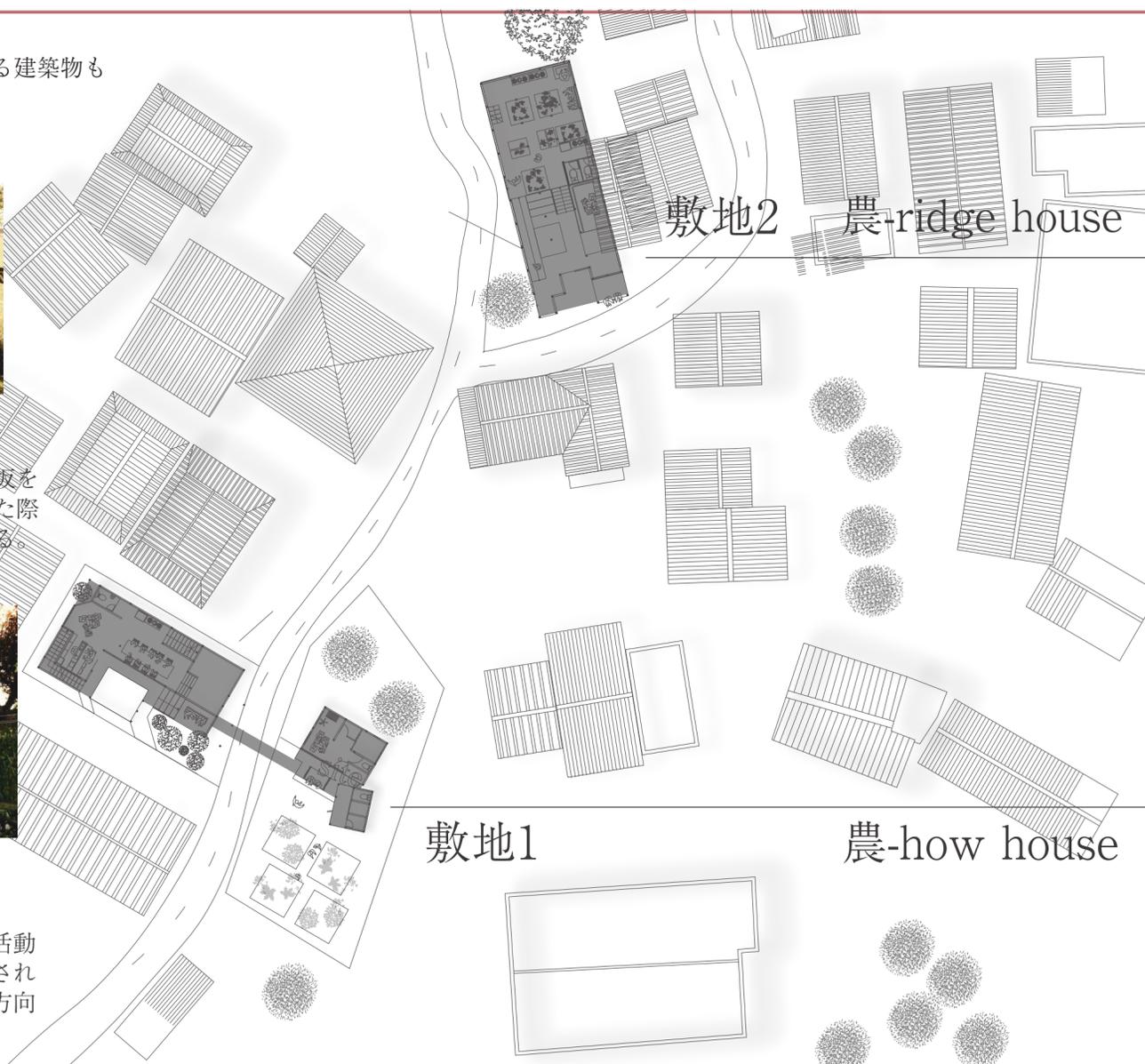
廃材や空き家を利用した地域住民による建築物も斜面を繋ぐ要素となる。



**廃材ハコゴラ**  
角材や板材をつなぎ合わせ緩やかな坂を形成する。空き家をそのまま利用した際は配管を活用し植物の成長に役立てる。



**スケルトンファーム**  
空き家の利活用。階段は残し、農的活動をしながら登る。斜面に沿って構成された町であることからファームが垂直方向に連続する。



登れる屋根は子供が上から作物を観察することや高齢者が一休みする日陰を作り、つた系の野菜は絡まりながら大きく成長する。



スロープで農園から帰ることにより収穫した野菜がさまざまな人の手に届いていることが確認でき活動のやりがいにつながる。また野菜を購入・調理する側も生産者の顔が見え安心安全の供給。



地域住民によるコミュニティガーデンの利用  
栽培・収穫



日々の料理や保存食品の調理場  
(野菜の加工品を気軽に販売できる)



野菜の販売(地域ブランド化)  
DIY作品のギャラリーにもなる



採りたて野菜のご馳走  
(食育にもつながる)

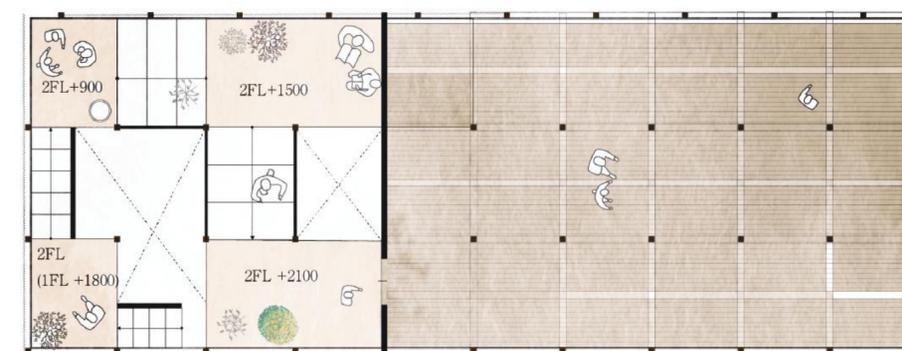
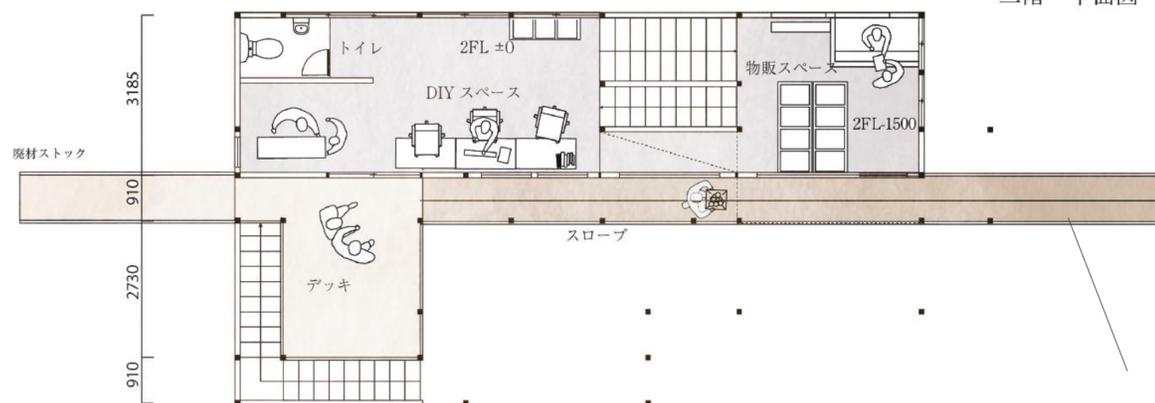


高齢者集まりスペース  
高齢者でも腰痛持ちでも気軽に農的活動ができる。  
さらにベンチを置き畑を見ることで癒しや談話の場にもなる。  
スキップフロアがこどもの遊び場となり、回遊性ととも高齡者の見守りにも期待できる。

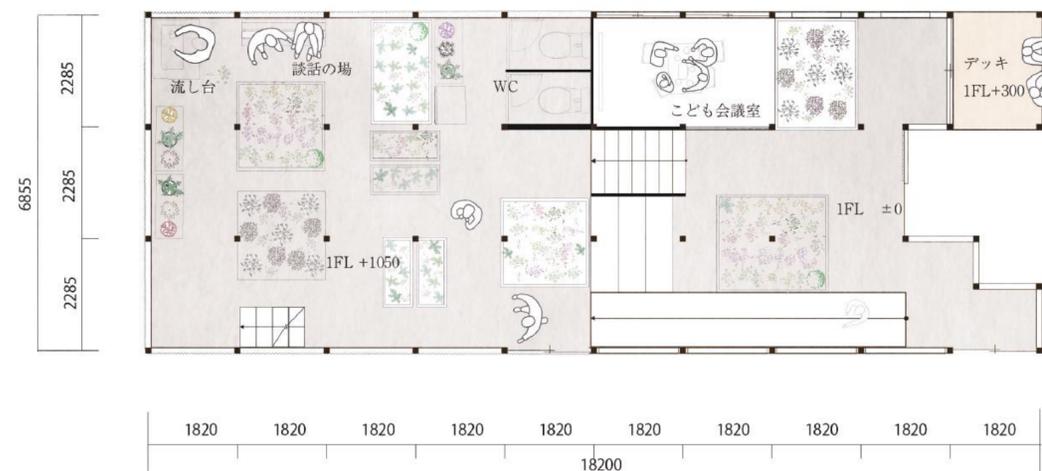
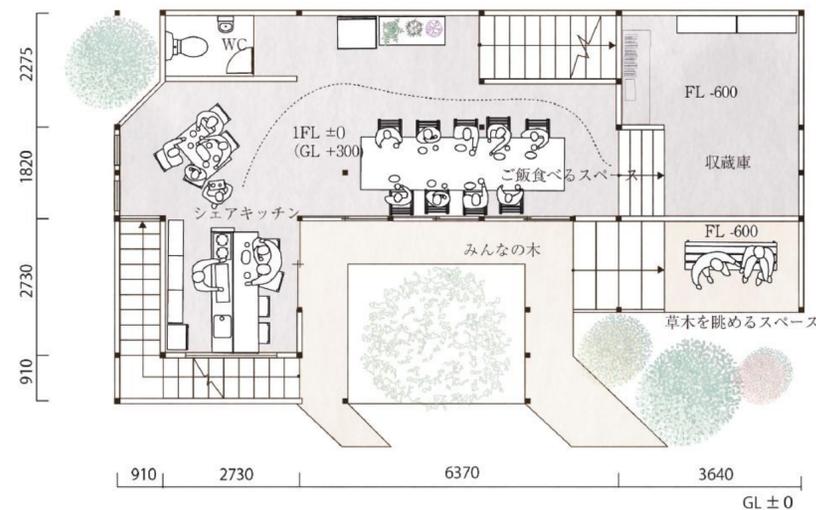


こどものわんぱくスペース  
登れる屋根により緩やかに傾斜地をつなぐ。  
またスロープや階段によりさまざまな視点から作物を観察することができる。  
花壇置き場には、地域住民が育てたお花を持ち寄り、まちなか展示場と化す。

二階 平面図

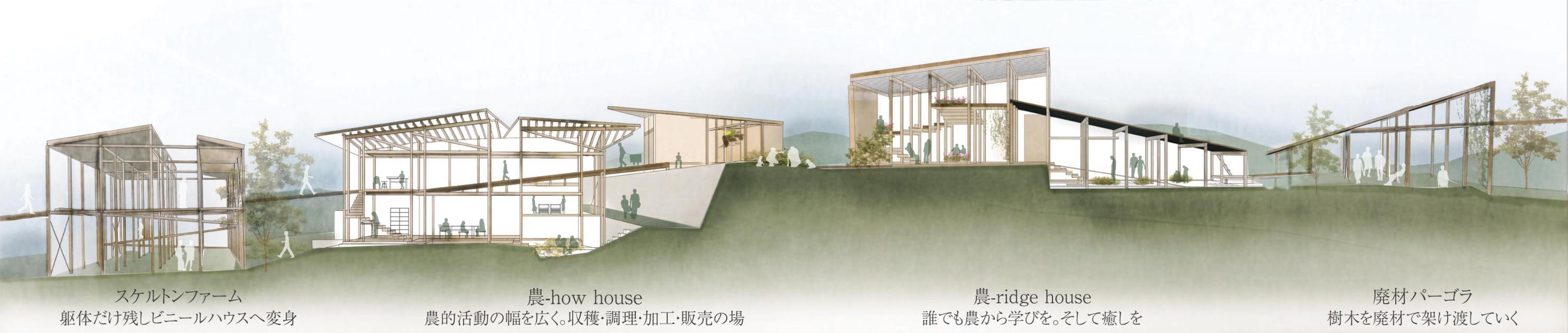
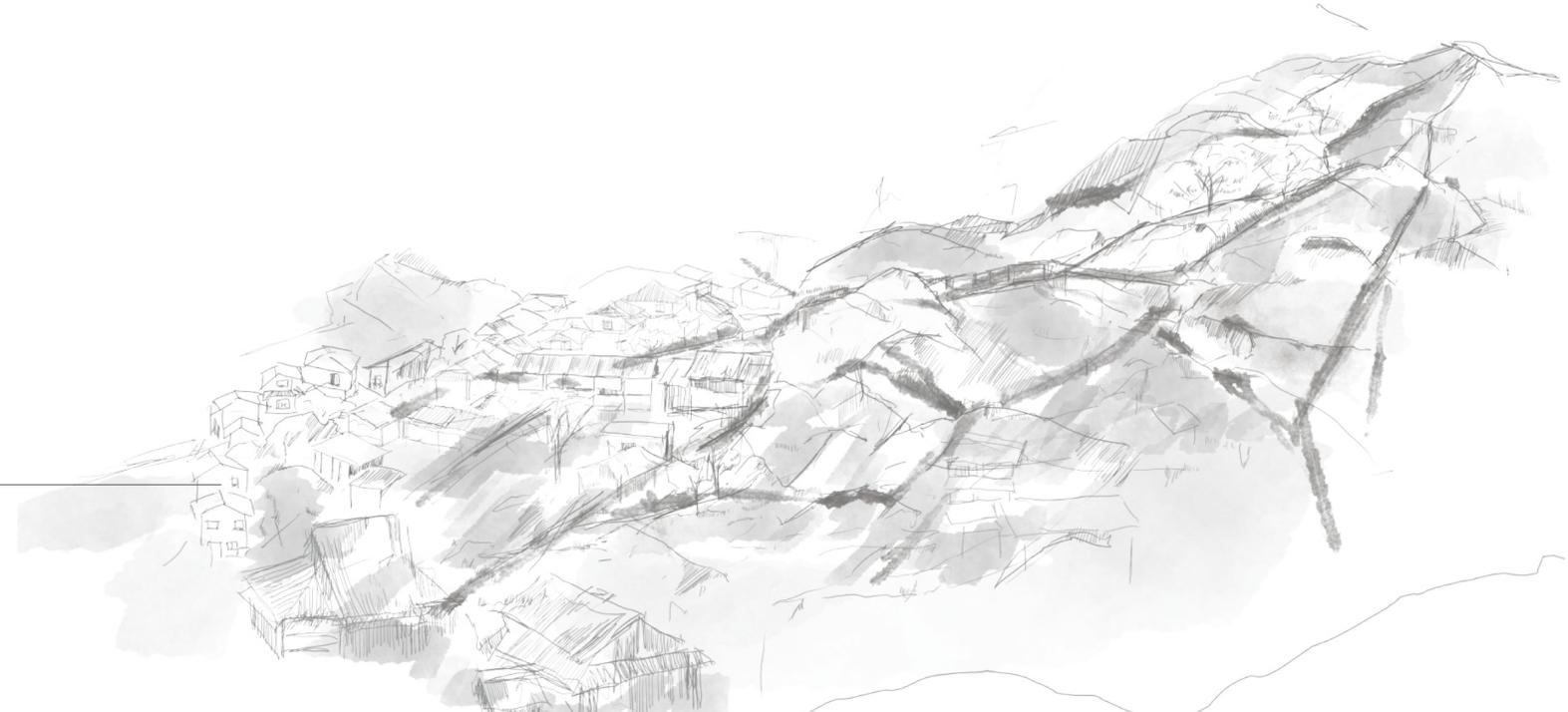


一階 平面図



農的空間に変えながら斜面を緩やかに繋ぐ...

# 過去・現在・未来をつなぐ道へと



スケルトンファーム  
躯体だけ残しビニールハウスへ変身

農-how house  
農的活動の幅を広く。収穫・調理・加工・販売の場

農-ridge house  
誰でも農から学びを。そして癒しを

廃材パーゴラ  
樹木を廃材で架け渡していく

